

概要

- 室戸市は、室戸阿南海岸国定公園に指定されている海岸線や、世界遺産登録を目指している四国霊場八十八箇所の3霊場など恵まれた観光資源を有し、平成23年には「室戸ユネスコ世界ジオパーク」に認定されるなど県東部地域の観光拠点となっている。
- また、近年では観光施設の整備に取り組み、平成27年に「室戸世界ジオパークセンター」、平成30年に室戸市海洋生物飼育展示施設「むろと海の学校(むろと廃校水族館)」を開設し、新しい人の流れを作り、交流人口の拡大に大きな効果をもたらした。
- しかし、新型コロナウイルスの影響もあり、令和2年には市の入込客数は大幅に減少。観光客等のニーズも変わってきている。
- 令和5年には新型コロナウイルス感染症が第5類となり、今後は観光入込客が回復することが予想されることから、「漁港内の水面を活用した体験メニューの開発・磨き上げ」や「室戸岬漁港を核とした周辺観光（室戸海洋深層水体験交流、グランピングなど）との連携や、漁港への魚介類の陸上養殖事業者の誘致」による漁港・漁村における新たな海業展開、地域産業の活性化策の検討を進め、流入人口・交流人口の回復・拡大を図っていく。



海業の取組概要

これまでの取組

室戸岬漁港内（漁港交流広場、海の駅とろむ等）



室戸岬漁港の周辺



効果



室戸市への入込客数は、コロナ前の平成30年には**約66万人**に増加

これまで以上に取組を展開し、漁村の賑わいの創出に努め、**コロナ前まで交流人口の回復を図る！**

今後の取組

- ①漁港内の水面を活用した体験観光メニューの開発・磨き上げの検討
室戸ドルフィンセンター、国立室戸青少年自然の家、釣り、定置網漁業などシーカヤックやSUP、室戸ドルフィンセンターでのふれあい体験等について、水面の活用方法（占用、漁港水面施設運営権の活用等）を検討
- ②室戸岬漁港を核とした周辺観光（室戸海洋深層水体験交流、グランピング、バーベキューなど）との連携と新たな海業展開による活性化策の検討
既存事業者との協力体制の構築、連携強化による滞在型・通年型観光への移行
- ③漁港への魚介類の陸上養殖事業者の誘致による地域産業の活性化策の検討
養殖された水産物を新たな特産品として活用するとともに、漁港・漁村内の飲食施設や市内飲食店・宿泊施設での提供を行う。



協力体制



スケジュール

- ①水面を活用した体験観光メニューの開発・磨き上げ
- ②室戸岬漁港を核とした周辺観光との連携等による活性化策の検討
令和6年度：ニーズ調査・計画の策定
(新たな海業の可能性を検討)
令和7年度以降：事業化(予定)
- ③陸上養殖事業者の誘致による地域産業の活性化策の検討
令和5年度：候補地適地調査
令和6年度：候補地における取水（ボーリング）調査
調査結果に基づき、HP等により周知を行う。
陸上養殖事業者との打ち合わせ・折衝
誘致・事業化に向けた地域の合意形成
令和7年度以降：事業化(予定)